



八 神性東通記 しんしょうとうつうき

太神宮本地 だいじんぐうほんぢ

五輪名四輪事 ごりんにしりんとなづくこと

神体図記 しんたいずき

図書館所蔵、河野省三記念文庫一一五号。写本四卷一冊。線装本四ツ目綴。裏葉色表紙。本文巻頭に「神性東通記」とあり、本文首葉に「國學院大學図書館蔵」「紫雲文庫」等の印記あり。縦二七・八糎、横二〇・六糎、十六丁。題簽に肉筆で「神性東通記并太神宮本地／五輪名四輪事／神体図記」とあり、四巻を収める合本。料紙は楮紙。奥書に「延文第六辛丑仲春下旬之候於白豪寺以或者者本令書写之畢／求法仏子玄空」とある。

※

※

『神性東通記』は空海の高宮入定説を記す代表的な書であり、鎌倉後期以降成立の両部神道書の一つ。その内容は、空海は天照大神の化身であり、その入定所は高野山奥院ではなく、伊勢外宮別宮の高宮（多賀社）の坂下であるとすする秘事である。本書の成立には、伊勢神道の中心的存在である度会常昌のほか、彼と交流のあった道順を中心とした三宝院流の僧侶が関与していたとされている。伝本はほかに、尊経閣文庫本・金沢文庫本・正祐寺本（高野山大学図書館寄託）・真福寺文庫本（二本）等が存在する。この中で奥書を有するのは、河野文庫本と正祐寺本であり、ともに『太神宮本地』と合本になっている。河野文庫本の奥書によ

れば、延文六年（一三六一）に白豪寺において書写されているが、同寺は西大寺の末寺である。また、正祐寺本の奥書によれば、元中四年（一三八七）に伊勢弘正寺の僧により伝授されているが、弘正寺もまた西大寺の末寺である。鎌倉後期から南北朝期にかけて、伊勢の西大寺流は神道説の形成に重要な役割を果たしており、その中心となったのが弘正寺であった。この時期同寺には多くの神道書が相伝されており、本書の相伝もその一環として理解される。

付載されている『太神宮本地』の奥書には「享祿五年壬辰三月吉日／伝授法仰権大僧都澄舜」とある。ここでは、空海と内外宮が一体であると説き、且つ空海入定を巡る秘話が記されており、『神性東通記』の内容が簡略化されている。『五輪名四輪事』・『神体図記』の奥書には、それぞれ「于時天正十一年夏中比敷 良恵」・「慶安二年春季月」と記される。

（精園佳子）

【所収本】

『真福寺善本叢刊六卷 両部神道集』（臨川書店）

所収、平成十一年（一九九九）

【参考文献】

右所収本の解題（伊藤聡執筆）

門屋温・伊藤聡「空高宮入定説話関係資料について―その翻刻と紹介―『論叢アジアの文化と思想』二号、平成五年（一九九三）